

日本動物看護学会
第6回大会

1998年 6月14日(日)
東京大学農学部

日本動物看護学会 第6回大会

会 期

1998年 6月14日(日) PM 1:30-7:00

会 場

東京大学農学部 1号館大講義室(2F)

参加費

正会員	非会員	
(3000円)	(5000円)	(98年度分年会費3000円で当日入会も可能)

ワインパーティー

- PM6:00より行います。懇親会費は無料です。
- 多種多様の分野で活躍する動物看護師の方々や、研究をなさっている方々と、気楽に意見を交わせる絶好のチャンスです。会員・非会員ともに積極的にご参加ください。

[学会連絡先]

学会事務局 日本動物看護学会事務局(桜井動物病院内)

TEL 03-3652-9101

Fax 03-3656-9288

大会連絡先 東京大学農学部獣医解剖学教室
(当 日)

第6回大会日程

1. 大会開催 1:30-1:35 総合司会 吉村 亮子理事
2. 会長挨拶 1:35-1:40 今道 友則 会長
3. 大会長挨拶 1:40-1:45 林 良博 (東京大学教授)
4. 一般演題 1:45-3:15 (質疑応答含む)

①アメリカ研修旅行に参加して

中俣 由紀子(かしま動物病院動物看護師)

座長 齊藤 久美子
(齊藤動物病院)

②動物看護師による院内でのしつけ指導

鈴木 菜保子(ドリトル動物病院動物看護師)

座長 小松 千江
(新ゆりがおか動物病院)

③腸吻合を施した猫の食事管理

小中 裕子(北川動物病院動物看護師)

座長 廣田 順子
(アリス動物クリニック)

④訪問活動における動物看護師の役割

宇田川 勇(アラン&ドロンの会)

座長 大城 朋子
(四街道動物病院)

5. 動物看護師技術講座 3:10-4:00

「動物の飼い主のメンタルケア」

長田 久雄(都立保健科学大学)

座長 小杉 正太郎
(早稲田大学)

〔休憩〕

4:00-4:10

6. シンポジウム

4:10-5:40

「動物看護師のカリキュラムの検討-その2」

座長 桜井 富士朗(日本動物看護学会-事務局長)
渡辺 茂(慶応大学)

〈シンポジスト〉

高橋 和明(日本獣医畜産大学)
田中 吉春((財)食品薬品安全センター)
小杉 正太郎(早稲田大学)

6. ワインパーティー

6:00-7:00

アメリカ研修に参加して

かしま動物病院

中俣由紀子

今回は「動物看護師の為のセミナー受講を兼ねたアメリカ研修」に参加致しまして、感じたことについてお話しいたします。

アメリカ研修に関しましては、すでに昨年何度か紹介説明があったり、ニュースレターでも理事である小松氏が述べられてましたので御存知の方も多いかと思いますが、ここでもう一度私もお時間を頂き、お話しをいたします。

研修が行われたのは、今年の1月16~22日の7日間で私達は、カリフォルニア州にあるカリフォルニア大学の獣医学部がおかれていますデービスでのものでした。

今回の参加者の大半は、現役の動物看護師や動物看護師を目指す学生が集まり、30数名ほどとなりました。

研修の内容は、といいますと、ペットショップやシェルターの視察、大学病院や個人の小動物病院見学及び2日間のUCデービスでのセミナーでした。

このセミナーでは、犬、猫の問題行動、飼い主の為のペット選びからはじまり、動物の扱いと保定法、包帯法、ペット・ロスについて肝、心疾患におけるナーシングケアなどでした。これらの講義は、Dr.レイトン、Dr.ハートという著名な先生方から、20年以上の経験のあるベテランの動物看護師のすばらしい方々のものでした。

しかし、これらの内容は一見知っていてあたりまえといわれるようなことですが、動物をケアする上で忘れてしまいがちなことであるのですがとても重要なことだと思います。

特に犬が人間の上に立ってしまい悩んでいる家庭からの相談を受けることがあります。そのようなことも問題行動の一つでありペットの選び方、しつけ方法に問題があるということになりますが、そのようなことももう少し動物看護師である私達がきちんとした知識を身につけていなければならないといけないことですし、これからはもっと力を入れる点だと思います。ペット・ロスに関してもそうです。興味はあっても、実際に一歩ふみだせないなど普段の仕事上で必要なことであるのに、現在の日本ではあまりとりざたされない部分のものが多かったため、私自身非常に興味深く受講することができましたが、学生さんからベテランの方が、同じ講義を受けるにあたりかなり理解度に差があったような気がします。

また、動物病院の見学等では、獣医師のアシスタントというだけでなく、責任のある立場におかれ勤務している動物看護師という、一つの職種についている人々の姿をまのあたりにし、日本とアメリカという国の違いによる大きなギャップを感じるとともに、自分自身、このままでいいのかという疑問が付きまといましたが、それと同時に見習わなければいけないと思われる点が数々でてきました。どんなに背伸びをしても、すぐには日本での動物看護師の仕事はかわらないのですし、これからは知識を身につけながら、

現実を見て、今の自分に与えられた仕事に自信をもたなければならないということを、改めて知らされたような気がします。

すべてのセミナーが終了し最終日には、修了証書の授与もありとても有意義なひとときでした。

全体的な感想としては、動物飼育における徹底化など、今後私達も広めていかなければいけないことなど多くを短時間で見てきましたので、あわただしく過ごしてきましたけれど、日本にはあじわえないことを学んだ気がします。

私自身、アメリカやその他の国の動物看護師のすばらしさは話などで耳にしていたが、実際の現場で再確認し、何ともいえない気持ちになりました。

日本では、やっとな動物看護師という仕事が一般に知られ、動きだしたという感じですが、アメリカではもうすでになくてはならない職業であり、動物看護師というものが一つの分野として、1人立ちしてきていることを実感しました。

現在、私が勤務しています茨城県鹿嶋市では、動物看護師すらいなかったため、動物病院は獣医師だけという固定観念があるので、長い間お手伝いさん扱いを受けていました。ですから東京の病院から転職し3年目を迎え息詰まることも多かった時に、セミナーに思いきって参加してみようと思いました。

その結果、各地の動物看護師の方々とは知りあえ、交流がもてたことが私にとって、すごく新鮮でした。

動物病院の中で、あわただしく毎日を生活している中で、ほんの7日間という短い時間でしたが、これ以上ないと言えるほどのやすらぎと仕事に対する新しい意欲を、参加したことによって与えてもらったような気がします。

国内でセミナーがあっても、その場限りということが多いので、今回出逢った人達はいつまでも動物看護師として続けていて欲しいと思うし、また大切にしていきたいと思います。

今回参加はしてないものの、少し興味があった方、興味をもたれた方、機会がありましたらぜひ一度参加してみたらいかがでしょうか。きっと新しい何かをみつけだせると思います。

今までは、海外研修など獣医師だけのものと思っていましたので、私達が参加できるようなセミナーが企画されたことがとてもうれしかったと同時に、参加することを薦めて下さった院長先生にも感謝しています。

今後の課題として、海外へ行くのならもっと専門英語を理解できれば、また、少し違ったものを得られるのではないかと感じ、日本ではなかなか勉強できないようなことが、行われたら次の機会も参加させて頂きたいと思います。

腸吻合を施した猫の食餌管理の一例

小中裕子 (北川動物病院・東京都)

近年獣医療の向上に伴い、アニマルヘルスケアの必要性は次第に高まっています。私たちAHTの仕事の中で病気をもつ動物の食餌管理は重要な位置を占めています。ここ数年でペットフード会社は競って処方食を生産販売しておりますが、生活環境や嗜好性が異なるペット一頭一頭にあわせて食餌を処方することはとても大変なことです。また、AHTはペットの環境変化やストレスからの食欲低下にも対応する必要があります。皆さんもいろいろな方法で給餌をしていると思いますが、本日は当院の食餌管理について、腸吻合を施した猫を通して報告させて頂きたいと思います。

動物看護師による動物病院でのしつけ指導

板橋区 ドリトル動物病院 鈴木 菜保子

はじめに

しつけは、犬が人間社会で生活していくうえで必要なことであり、しつけをされている犬は飼主と共に快適な生活を送ることができます。以前に比べると飼主のしつけに対する意識は高まってきています。そこでしつけについてアンケートをとってみました。

アンケートの結果

多くの飼主は、しつけをしていると答えていますが、しつけをしていないと答えた飼主も見受けられました。

○しつけをしていると答えた飼主

動物病院でしつけ指導を受けたり、本から知識を得ているという解答が多く見られました。しかしその中には私達と飼主の「しつけ」についての考え方に違いがみられる場合もありました。

○しつけをしていないと答えた飼主

ほとんどの飼主が、しつけの方法がわからないという解答をしており、しつけはしてみたが諦めてしまったという解答もありました。

※このことから動物病院でもしつけ指導を行うことが必要と考えられますので、具体的にどのようにしたら良いのかを考えてみました。

◎しつけ指導のアピール方法

○直接的アピール

- ①飼主に聞く（アンケートをとる）
- ②パンフレットの配布

○間接的アピール

- ①ポスター、パネル等の掲示
- ②しつけ教室のお知らせ

◎しつけ指導のタイミング

来院時の待ち時間を利用してアンケートに記入してもらう。（初診の時は、カルテと一緒に記入してもらう）なお来院の理由が、病気の時と病気ではない時とがあるので留意すること。

○病気の時

回復期まで待つ（獣医師の診断により、いつしつけ指導を行うか決める）

○病気ではない時

しつけ指導を行う（再来院の場合は、前回の指導の結果を聞き指導する）

◎やって欲しいしつけとやっておきたい飼主教育

○やって欲しいしつけ

- ①トイレ
- ②スワレ
- ③マテ
- ④ツケ
- ⑤コイ
- ⑥フセ
- ⑦無駄吠え
- ⑧食餌

○飼主教育

- ①飼主が常にリーダーシップをとる
- ②首尾一貫した態度をとる
- ③できるまで諦めないでやる

おわりに

しつけの方法は色々ありますので、飼主の飼育条件、環境、犬の性格等を考えて個々に応じて選択することが必要であると考えられます。また同時に、飼主に対して犬を飼育する上でのマナーを教育することも、私達動物看護師の仕事の一つだと思います。今後も飼主一人一人に応じたきめの細かいしつけ指導が行なえるよう、更に努力を傾けていきたいと思っています。

訪問活動における 動物看護師 の役割について

アラン&ドローンの会 宇田川 勇 金田 京子

1) はじめに

私達が活動(AAA)をしている所は、江東区の特別養護老人ホーム「あそか園」「塩浜ホーム」「北砂ホーム」、荒川区の特別養護老人ホーム「グリーンハイム荒川」、足立区の特別養護老人ホーム「ゆうあいの郷 扇」、台東区の老人保健施設「千束」の6カ所になります。3カ月に1度を目安に、訪問活動をしています。活動に参加する動物は、ハムスター、ウサギ、犬、猫などですが、私達の会では、猫が多いのが特色だと思います。猫は、誰が触っても、おとなしくしているのは、なかなか難しいのですが、私の病院には、猫が20匹ぐらいいつも居ます。皆 ノラだったり、患者さんが、飼えなくなってしまった猫を、引き取っていたら、こんなになってしまいました。そのおかげで、何とか活動に適した猫を、育成できていると思います。

2) 訪問活動(AAA)

訪問活動は、施設の人とボランティアさんと病院スタッフ(動物看護師)が、中心と成り活動しております。活動時間は、40-60分程度ですが、いつも、長いようで短く感じられます。活動の場所は、ホールなどで輪になって、行なうことが多いです。施設の依頼で、各フロアでグループに別れて、活動することもあります。

活動の初めの時間は、動物が好きな人が、「良く来たね」「おとなしい子だね」「この子は男の子、女の子」などと、声をかけてくれます。そうすると、回りのあまり動物が好きでない人も、たのしそうに、動物に触れてくれます。活動の終わりごろには、嫌いだと言われた人も結構、動物に触れられます。活動を初めた頃は、大きな立派な犬が、(ゴールデンのような)いないとダメなのかな、と思っていましたが、ハムスターのような小さな動物でも、大変喜ばれ、活動に連れて行かないと、「今日は、ネズミさんはいないの」と言われる事もあります。又、小型犬や猫を、「抱っこさせて下さい」と言われ、10分も20分もそのまま抱っこされて、動物とのスキンシップを、楽しまれる人もいます。

施設のケースワーカーさんの話によると、「活動中に、普段は見られない自然な笑顔が見られます。又、いつもは5分も、じっとしてられない人が、熱心に動物を見たり、触ったりしています。お年寄り同志の会話も、弾みます。又、次回の活動を待ち望み、それが生活の目標にも、なっています。」と、言われました。

3) 動物看護師の役割と課題

動物看護師は、活動に参加する動物を、育成、管理する。又、活動の場において、ボランティアさんとの、取りまとめ役として、又、活動中、動物が、できるだけ、ストレスを受けないように、努力すること。

今後の課題として、活動を重ねた施設では、どのような大きさと、どのような性格の動物が、必要なのか、又、その動物を、どのボランティアさんに、任せたら良いかなど、総合的な判断が、必要になって来ると、思います。

飼い主のメンタルケアについて

東京都立保健科学大学 長田久雄

本講座では、以下の2点を中心に話題を提供したい。まず、飼い主に対するメンタルケアの必要性が生じた背景として考えられることについてお話ししたい。次に、飼い主に対する心理的対応の前提として必要だと思われることについて、心理臨床の立場から演者の考えを述べたい。

飼い主に対するメンタルケアの必要性が生じた背景として演者は、日本人の生活が豊かになったこと、我が国が長寿社会、少子社会を迎えたことなどによる、飼い主と動物との関係の変化を指摘したい。飼い主に対する心理的対応の前提として演者は、援助を行う者が、心理・行動に関する基礎知識・人間関係に関する基礎知識・精神保健に関する基礎知識を持ち、心理的に対応する対象の特徴や問題を正しく理解する方法を修得し、自分自身の心理・行動の特徴について自覚するための訓練を受け、カウンセリングの基礎技法を修得しておく必要があるのではないかと考えている。また、スーパービジョンのシステムを確立することも望まれるのではなかろうか。

本講座で演者は、上記のように心理臨床の立場から考えを述べさせて頂く。動物看護の専門の立場から見て不十分な点や、演者の理解が誤っている点についてはご指摘頂き、議論ができれば幸いである。

動物看護師教育の進め方と問題点

財団法人食品薬品安全センター
田中吉春

動物看護師のカリキュラム検討は、本会第5回大会のシンポジウムにおいて「実験動物と動物看護師」ということで実験動物分野における資格認定のためのカリキュラムを紹介した。今回のシンポジウムでは、動物看護師の資格認定のためのカリキュラムについてその進め方ならびに問題点を提議し、具体的な資格認定を進めていくための叩き台としたい。

1. 動物看護師の教育カリキュラムを検討する上での必要事項

① 定義の明確化

動物看護、動物看護師、動物看護学などの定義を明確にする必要がある。

② 動物看護師の範囲の決定

対象とする動物看護師をどの範囲にするかを明確に規定する必要がある。

③ 動物看護学の教育段階

動物看護師の教育を専門学校の範囲にとどめるのか、大学もしくは大学院教育まで行うかによって、その教育内容は異なる。

④ カリキュラムの検討

専門学校、大学、大学院それぞれについて検討する必要があるが、当面は専門学校のレベルで検討し、内容を吟味する。

⑤ 救済措置の検討

既に勤務している動物看護師の資格をどの様に認定するするか。またその教育はどのように行うか。

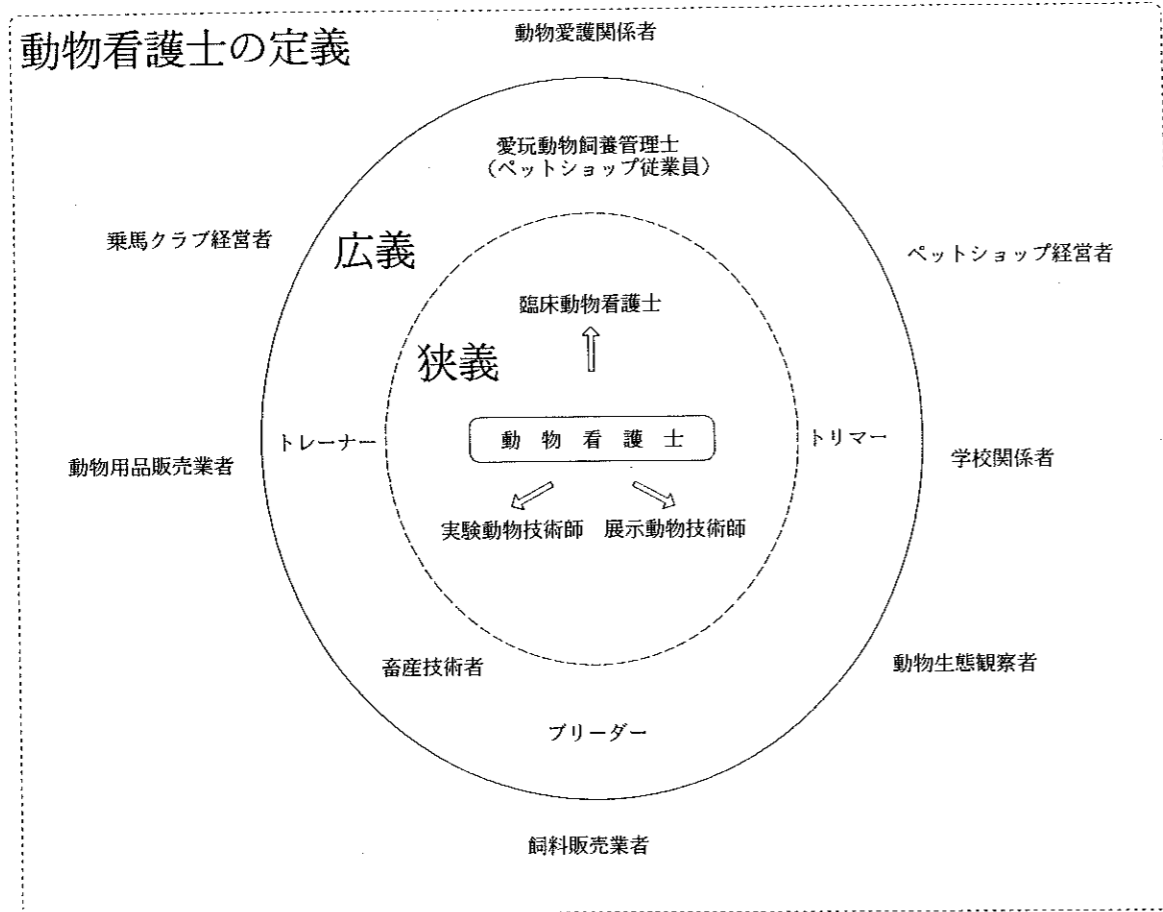
⑥ 資格の取扱い

動物看護師資格が定着した段階で、その資格をどう生かすか。他の資格（実験動物、展示動物、愛玩動物飼養管理士など）との関係をどうするか。

⑦ その他

資格取得後の教育、登録などをどの様におこなうかを検討する。

動物看護師の定義



1 日本獣医畜産大学動物看護専門学校 (案)

1. 建学の趣意

物質文明の発達に伴って、地球資源の乱掘や乱獲による環境破壊や生物資源枯渇化の傾向が生じてきたことは周知の事実であり、特に、近年、地球の生物が共生できる環境について思惟されるようになってきた。例えば、植物界の保全は言うまでもなく、動物界においても、幾多の種の絶滅を経験してきた人類は、現在、種の保存に向おうとしている。また、身近な展示動物に対しても、自然に近い飼育環境が考慮されつつあり、家畜についても、動物の生理を無視した生産性追求の飼育環境に対する反省が生まれようとしている。このような歴史の進展の中で、人々の心の中に弱者への慈愛の精神が養われ、今日、人において看護婦が必要なように、動物に対する看護師の必要性が認識されるに至った。そして、これらの歴史的背景を踏まえた教育理念に基づく動物看護師の養成は現在急務とされている。我々はここに、生命に対する畏敬および共生相和の理念のもとに、動物が最適な生活活動を営めるよう援助する職域を担う動物看護師を養成するための日本獣医畜産大学動物看護専門学校（日本獣医畜産大学アニマルナースカレッジ）の創設を計画した。

2. 教育理念

生命を畏敬し、共生相和する精神を養う。

3. 動物看護学の定義

動物看護学とは、動物の健康の保持・増進・繁殖・健康の回復、あるいは安らかな死のために、最適な援助をする科学および技術学である。

動物看護師の教育



3 日本獣医畜産大学動物看護専門学校カリキュラム(案)

2 日本獣医畜産大学動物看護専門学校(仮称)カリキュラム及び
授業時間割りについて

日本獣医畜産大学動物看護専門学校(仮称)の概要並びに教育カリキュラム等については、下記の要領にて作成している。

記

1. 日本獣医畜産大学動物看護専門学校(仮称)は学校教育法第82条の2に定める専修学校とする。
2. 修業年限は2年とし、昼間学校とする。
3. 入学定員は100名、収容定員200名とする。
4. 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
5. 学年を次の2学期に分ける。
前期: 4月1日から9月25日 後期: 9月26日から3月31日
6. 入学時期は学年の始めとする。
7. 入学資格は、高等学校を卒業した者、又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者等とする。
8. 休業日等は別に定める。
9. 教育課程は、各授業科目全てを必修科目とし、各年次に配当する。
(詳細は別紙「日本獣医畜産大学動物看護専門学校カリキュラム(案)」参照)
10. 授業科目は単位制とし、1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する。
講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
実習・実技については、45時間の授業をもって1単位とする。
11. 授業は、1コマ(1時限)90分授業とし、2時間換算する。
12. 年間授業時間数は、800時間以上とする。
13. 上記の他、職員組織等の詳細については、「日本獣医畜産大学動物看護専門学校学則」の定めによる。
14. 時間割作成に当たっては、学部教育を最優先し、使用教室を割り当てる。
15. 時間割(案)は、平成6年度後期及び平成7年度前期未使用教室を割り当てる。
16. 授業は、講義が主なため、100名以上収容する教室を割り当てる。
17. 2年制のため、時間割作成に当たっては、2年次まで含めて作成する。
実習については、集中実習とする。

分類	授業科目	履修年次及び単位数				単位(時間)数計		割合	備考
		1年次		2年次		講義	実技・実習		
		前期	後期	前期	後期				
基礎科目	人文科学	1	1			2(30)		20%	
	人間関係・人と動物関係学								
	生命倫理学	1	1			2(30)			
	社会学			1		2(30)			
	経営・経済学			1		2(30)			
	情報管理学			1		2(30)			
	地球環境学	1				1(15)			
	自然科学	1	1			2(30)			
	生物学	1	1			2(30)			
	化学	1	1			2(30)			
外国語(英会話)	2	2	2	2	8(120)				
保健体育	1				1(15)				
講義						1(45)			
実技	1						1(45)		
小計	9	8	4	2	22(330)	1(45)			
専門基礎科目	動物福祉	1				1(15)		27%	
	動物解剖学	2	1			3(45)			
	動物生理・生化学	2	1			3(45)			
	動物栄養学			1	1	2(30)			
	動物薬理学	1	1			2(30)			
	動物微生物・寄生虫病学	1	1			2(30)			
	動物公衆衛生学	2	1			3(45)			
	動物内科看護学		1	2	1	4(60)			
	動物外科看護学			1	1	2(30)			
	動物放射線学			1	1	2(30)			
	動物行動学	1	1	1		3(45)			
	水族飼養学	1	1			2(30)			
	動物臨床検査学		1	1	1	3(45)			
関係法規				1	1(15)				
小計	11	9	7	6	33(495)				
専門科目	動物看護学概論	1				1(15)		10%	
	大動物看護学		1	1		2(30)			
	伴侶動物看護学		1	1	1	3(45)			
	実験動物看護学		1	1	1	3(45)			
	野生・展示動物看護学		1	1	1	3(45)			
小計	1	4	4	3	12(180)				
専門実習科目	動物解剖実習	1	1				2(90)	44%	
	動物臨床検査実習		2	1	1		4(180)		
	動物基礎看護実習		1	1			2(90)		
	トリミング実習				1		1(45)		
	大動物看護実習			1	1		2(90)		
	伴侶動物看護実習			1	1		2(90)		
	実験動物看護実習			1	1		2(90)		
	野生・展示動物看護実習			1	1		2(90)		
	ヒューマンアニマルボンド				1		1(45)		
小計	1	4	6	7		18(810)			
合計		22	25	21	18	67(1,005)	19(855)	101%	
		47(885)	39(975)			86(1,860)			

(注) 講義 67単位×15時間=1,005時間
実習・実技 19単位×45時間=855時間 計 1,860時間

日本動物看護学会第6回大会

「シンポジウム」～動物看護師教育カリキュラム検討～

早稲田大学文学部心理学教室 小杉正太郎

飼い主のメンタルケアに関する教育カリキュラム案として、以下の諸科目の設置を提案する。

1. 基礎科目

臨床心理学概論、動物心理学概論、精神保健学概論、精神医学概論、

2. 専門科目・専門基礎科目

人格心理学、心理療法学、動物生態学、

3. 専門実習科目

人格測定法、行動測定法、心理カウンセリング、行動療法、